

第 1 節

有価証券

1 有価証券

簿記上の有価証券とは、国債、地方債、社債、株式（株券）などを総称したものをいう。このような有価証券は、一時的に余裕資金が生じたとき、その資金を有効に活用するために購入されるものである。

なお、株式は、1株、2株という数え方をするのに対し、公社債（国債、地方債、社債）は、1口、2口という数え方をする。また、公社債に記載された金額を額面金額という。学習上、1口あたりの額面金額は¥100とする。

2 有価証券の分類

有価証券は、保有目的等を基準として、次の4つに分類される。

(1) 売買目的有価証券

売買目的有価証券とは、時価の変動により利益を得ることを目的として保有する有価証券をいう。

(2) 満期保有目的債券

満期保有目的債券とは、満期まで所有する意図をもって保有する債券をいう。

(3) 子会社株式および関連会社株式

① **子会社株式**とは、他の会社に対する議決権の所有割合が100分の50を超えているなど、他の会社を支配する目的で保有する株式をいう。

② **関連会社株式**とは、子会社を除く他の会社に対する議決権の所有割合が100分の20以上など、他の会社への影響力を行使する目的で保有する株式をいう。

(4) その他有価証券

その他有価証券とは、上記のいずれにも分類できない有価証券をいう。

3 売買目的有価証券の会計処理

(1) 取得時

有価証券を売買目的で取得した場合には、購入代価に買入手数料などの付随費用を加算した金額、すなわち、取得原価をもって、**売買目的有価証券勘定**（資産）の借方に記帳する。

(売買目的有価証券) ××× (現金など) ×××

(2) 決算時

① 会計処理

所有する売買目的有価証券は時価をもって貸借対照表に記載する。したがって、決算において、売買目的有価証券の帳簿価額を時価に修正しなければならない。これを評価替えといい、この際に生じる帳簿価額と時価の差額（評価差額）は、**有価証券評価損益勘定**に記帳する。

(イ) 帳簿価額 > 時価

(有価証券評価損益) ××× (売買目的有価証券) ×××

(ロ) 帳簿価額 < 時価

(売買目的有価証券) ××× (有価証券評価損益) ×××

② 財務諸表上の表示

(イ) 貸借対照表

売買目的有価証券は、**有価証券**として**流動資産**に表示する。

(ロ) 損益計算書

有価証券評価損益は、借方残高の場合は**有価証券評価損**として、**営業外費用**に表示し、貸方残高の場合は**有価証券評価益**として、**営業外収益**に表示する。

● 範例 5 - 1 ●

次の資料に基づいて、仕訳を行い、損益計算書および貸借対照表を作成しなさい。

(決算年 1 回 3 月 31 日)

(1) X7年 2 月 1 日、売買目的にて A 社株式 ¥500,000 を小切手を振出して取得した。

→ (売買目的有価証券) 500,000 (当 座 預 金) 500,000

(2) X7年 3 月 10 日、売買目的にて B 社株式 ¥300,000 を小切手を振出して取得した。

→ (売買目的有価証券) 300,000 (当 座 預 金) 300,000

(3) X7年 3 月 31 日、決算日における A 社株式の時価は ¥550,000、B 社株式の時価は ¥270,000 である。

① A 社株式

→ (売買目的有価証券) 50,000 (有価証券評価損益) 50,000

② B 社株式

→ (有価証券評価損益) 30,000 (売買目的有価証券) 30,000

損益計算書

貸借対照表

〇〇株式会社	自X6年 4 月 1 日 至X7年 3 月 31 日	(単位：円)
	Ⅳ 営業外収益	
	1. 有価証券評価益	20,000

〇〇株式会社	X7年 3 月 31 日現在	(単位：円)
I	流動資産	
	有価証券	820,000

〈解 説〉

1. A社株式の評価差額の計算

$$\begin{array}{r} \text{時 価} \\ \text{取得原価} \end{array} \quad \begin{array}{l} \text{¥550,000} \\ - \text{¥500,000} \\ \hline \text{= ¥50,000 (評価益)} \end{array}$$

2. B社株式の評価差額の計算

$$\begin{array}{r} \text{時 価} \\ \text{取得原価} \end{array} \quad \begin{array}{l} \text{¥270,000} \\ - \text{¥300,000} \\ \hline \text{= △¥30,000 (評価損)} \end{array}$$

※ここで **練習問題 5-1** を解いて下さい。

(3) 売却時

売買目的有価証券を売却した場合には、その帳簿価額を**売買目的有価証券勘定**の貸方に記帳する。さらに帳簿価額と売却価額との差額は、**有価証券売却損勘定**（費用）の借方または**有価証券売却益勘定**（収益）の貸方に記帳する。

① 帳簿価額 > 売却価額

(現金 など)	×××	(売買目的有価証券)	×××
(有価証券売却損)	×××		

② 帳簿価額 < 売却価額

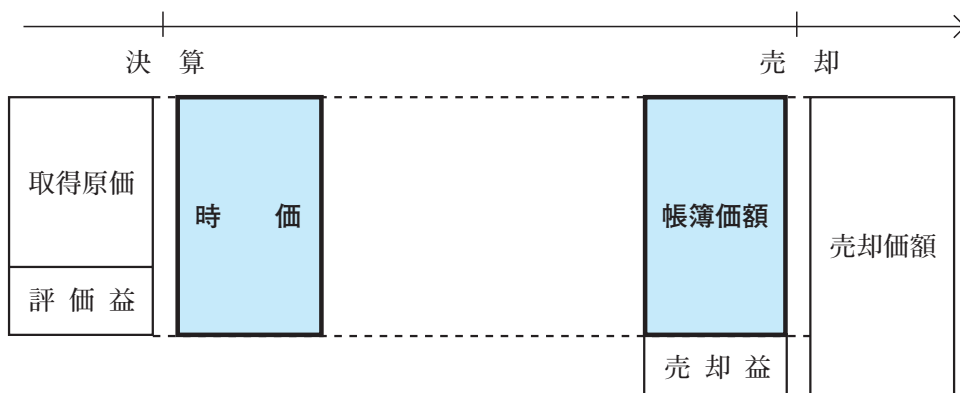
(現金 など)	×××	(売買目的有価証券)	×××
		(有価証券売却益)	×××

(4) 切放方式と洗替方式

売買目的有価証券の評価差額は、**切放方式**または**洗替方式**により処理される。

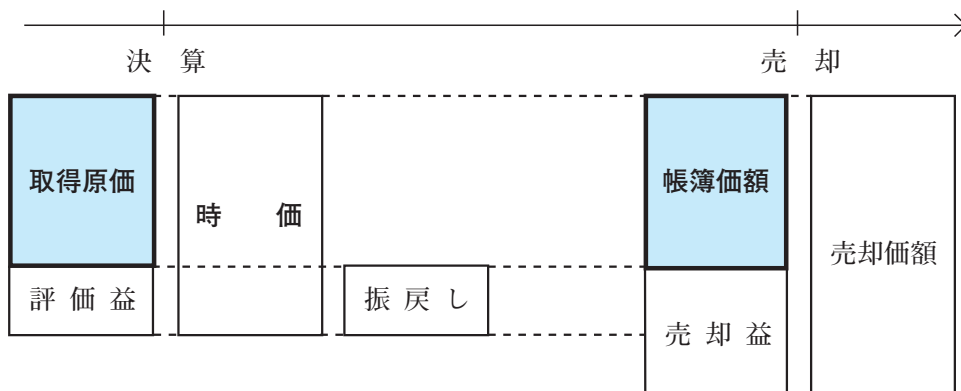
① 切放方式

切放方式とは、時価に評価替えを行った場合、当該時価を翌期への繰越価額とする方法をいう。よって、前期以前に取得した売買目的有価証券を売却した場合、その帳簿価額は前期末の時価となる。



② 洗替方式

洗替方式とは、時価に評価替えを行った場合でも取得原価を翌期への繰越価額とする方法をいう。よって、この方法によると前期末に計上した評価損益を振戻す仕訳が必要となり、前期以前に取得した売買目的有価証券を売却した場合、その帳簿価額は取得原価となる。



● 範例 5 - 2 ●

次の資料に基づいて、切放方式と洗替方式により仕訳を行いなさい。

(決算年 1回 3月31日)

- (1) X7年2月1日、売買目的にてA社株式¥500,000を小切手を振出して取得した。
- (2) X7年3月31日、決算日におけるA社株式の時価は¥550,000である。
- (3) X7年4月1日、前期末の評価差額を振戻した。
- (4) X7年4月3日、A社株式を¥600,000で売却し、代金は小切手で受取った。

→ 各仕訳

切放方式		洗替方式	
(1) X7年2月1日(取得時)			
(売買目的有価証券)	500,000	(当座預金)	500,000
(2) X7年3月31日(決算時)			
(売買目的有価証券)	50,000	(有価証券評価損益)	50,000
(3) X7年4月1日(振戻し)			
仕訳不要		(有価証券評価損益)	50,000
		(売買目的有価証券)	50,000
(4) X7年4月3日			
(現金)	600,000	(現金)	600,000
(売買目的有価証券)	550,000	(売買目的有価証券)	500,000
(有価証券売却益)	50,000	(有価証券売却益)	100,000

※ここで **練習問題 5 - 2** から **練習問題 5 - 3** までを解いて下さい。

売買目的有価証券については、評価差額や売却損益などを**有価証券運用損益**として処理することも認められる。